

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

1 実践テーマ	【 I・III・V 】
2 実施対象者	福岡県立北九州高等学校 2年生 40名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (体育・スポーツVI・スポーツ概論)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	九州共立大学に出向き、オリンピック・パラリンピックに関する種目を体験し、競技に関する知識や用具・施設についての理解を深める。また、スポーツに関する専門施設を見学し、スポーツの意義や価値について関心を高める。
5 取組内容	<p>高大連携協定を結んだ九州共立大学の協力を得て、実施した。</p> <p>スポーツ学部専任講師の山下龍一郎氏より「器械運動(台上倒立回転飛び・後方転回)」について講義と実技講習をして頂いた。競技に関するバイオメカニクスについて講義を受け、回転の構造や、ひねりの発生要因、失敗の種類とその改善点について映像とスライドで細かく説明いただいた。</p> <p>実技では、普段体操部の学生が実際に使っている体操競技専用の機材を実際使用し、将来指導者を目指す体操競技部の学生から、実技の補助、助言を受けながら、台上前転、台上倒立回転跳び、後方転回の実技を行った。</p> <p>台上倒立回転跳びでは、ロイター板を使用し、台上への跳び上がり、前転等の基本技能から、細かく説明を受け、補助者の立ち位置や手の形など、補助の方法も細かく学びながら、実技習得に励んだ。</p> <p>後方転回では、マットとロイター板で後傾の場を作り、補助を受けながら挑戦した。授業の終盤では、後方宙返りに挑戦する生徒も現れ、来年度の体育大会での演技発表に期待が持てる結果になった。</p> <p>休憩時間には、体操競技場内のトランポリンやピット、吊り輪、跳馬、平行棒などの機材にも実際に触れ、大学生の演技を見学した。</p> <p>学内のスポーツに関する専門施設を実際使用し、スポーツの意義や価値について関心を高める良い機会になった。</p>



6 主な成果

写真、動画、実物を見て、器械体操の種目についての知識の習得は

	<p>もちろん、体操競技場で実際に実技を行い、体操種目の奥深さ、上手く演技できた時の達成感、実際に演技することの難しさを経験できた。</p> <p>大学のスポーツ専門施設を見学し、生徒自身の将来の競技生活のイメージをつかむことができた。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>体操競技の指導者がおり、各大会でも優秀な成績を収めている学生を輩出している、九州共立大学に高大連携事業の一環で協力をお願いした。</p> <p>事前に講師の先生に体育大会の演技を確認していただき、今後の改善点、学校での練習方法等を協議することができた。</p>
8主な課題等	<p>本番の体育大会に向けて、複数回の実技指導が必要だと感じた。</p> <p>安全面に十分に配慮された大学の設備で、生徒は怪我の心配が少ない状況で行えた反面、学校の設備では不十分な部分を確認できたので、学校の設備の中で、安全に取り組めるための工夫が必要だと感じた。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>今後も、九州共立大学との高大連携を活用し、様々な競技をより専門的に学ぶ場として、出向きたい。</p> <p>九州産業大学とも連携し、高校生の実態をデータとして、大学の研究活動に活用してもらえると、連携活動が活性化されると考える。</p>